

## ■活動レポート

# 東日本大震災の文化財救済事業

上席専門学芸員 斎藤邦雄（考古部門）

今、世界中の目が日本、東北地方に向いています。3月11日、何の前触れもなく突然起こった大地震、はやくも三ヶ月が経過しようとしています。

この度の大地震は、多くの人命とともに、先人が古から脈々と築きあげてきた多くの歴史・景観・文化財を一瞬のうちに奪い去ってしまいました。

文化庁では、1995年に起きた阪神大震災での経験から、震災により被災した文化財（絵画、彫刻、工芸品、書跡、典籍、古文書、考古資料、歴史資料、有形民俗文化財等）を救済することを目的として「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業（文化財レスキュー事業）」を4月から実施することになりました。これを受け岩手県教育委員会では、特に被害

の甚大であった沿岸市町村の文化財救済を急務と捉え、具体的な事業実施にあたっては岩手県立博物館に事業を委託し文化財の救済を行うことにしました。

当館では、陸前高田市からの依頼で「海と貝のミュージアム」、陸前高田市立図書館に所蔵されていた県指定文化財を含む古文書及び関連資料の救済を行うとともに、国指定有形文化財が展示されていた市立博物館等の救済を進めています。これらの施設は、地震と津波により建物は破壊されました。幸い残されていた一部の展示資料や収蔵品は、海水を含み原状のものは当然皆無です。これらの資料を回収し安全な施設に移すことが当面急がれます。資料を甦

らせ、郷土の歴史の語り部として再生させるのです。

なお、今回の文化財の救済については公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター（岩手県立埋蔵文化財センター）、県内の各市町村教育委員会、学生ボランティアをはじめとする多くの方々のご協力をいただいております。



大槌代官所等の埋蔵文化財レスキュー（大槌町）

## ■活動レポート

# 古文書レスキュー

学芸第二課長 赤沼英男（文化財科学部門）

平成23年3月11日、大津波に直撃された陸前高田市。市街地の大半が濁流にのみ込まれ、壊滅的被害を受けました。市立図書館や博物館をはじめとする文化施設も全壊し、多数の資料が喪失しました。図書館2階の重要書庫には、岩手県指定文化財吉田家文書及びその関連資料が収蔵されていましたが、嚴重な管理が幸いし、多くの資料が津波による流出を免れました。

陸前高田市関係者の強い要請のもと、平成23年4月1日～3日、岩手県教育委員会、陸前高田市、一関市立博物館、及び岩手県立博物館職員が共同して、重要書庫内に残っていた「定留」（じょうどめ 気仙郡を統括した吉田家に仙台藩から出された通達や触れ書きなどが綴られた資料）、「気仙郡村絵図」、および関連文書数千点を回

収しました。「定留」については一関市立博物館で洗浄後岩手県立博物館に、他の資料についてはそのまま岩手県立博物館および公益財団法人岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センターに搬入されました。

回収された資料は海水に浸かっていたため、資料内部まで細かな土砂や泥が混入し、腐敗臭を放っていて、表紙の文字が流れてしまったものもみられます。外気温の上昇に伴うカビの進行が懸念されたため、修復作業は、土砂除去、エチルアルコールによる殺菌、純水による脱塩処理、凍結、真空凍結乾燥処理、ガスくん蒸の手順で進められています。

資料点数が膨大なため、作業は当館および埋蔵文化財センタ

一の職員の他、岩手大学教育学部および盛岡大学文学部の職員・学生ボランティアの協力を得、総勢150名強の体制で進められています。江戸時代から今日に至るまで幾多の災害を乗り越え、受け継がれてきた貴重な学術資料を後世に伝えるため、連日関係者による懸命な努力が続けられています。



真空凍結乾燥器による乾燥処理